

一般社団法人 社会福祉経営全国会議

コロナ・実態・事例ニュース



2021年9月10日発行 (No.11) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902

電話 06-6772-1360 Fax06-6772-1376 Eメール/jimukyoku1@f-zenkoku.net

コロナによる現場の実態・事例を緊急募集！

「ワクチン接種の状況把握・緊急アンケート」結果より

●「コロナ感染爆発！今、福祉の現場で何が起きているのか！事例募集中！」

書き込みフォーム

<https://forms.gle/M44xvT4iMxVHujzDA>



実施：社会福祉経営全国会議

■調査方法

：インターネット調査

■期間

：2021年7月26日～8月6日

■対象数

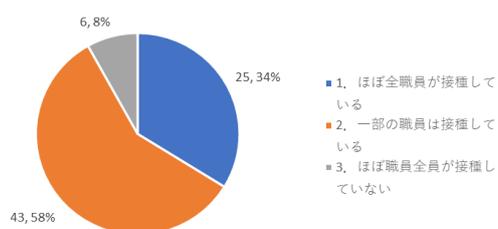
：139法人

■有効回答数

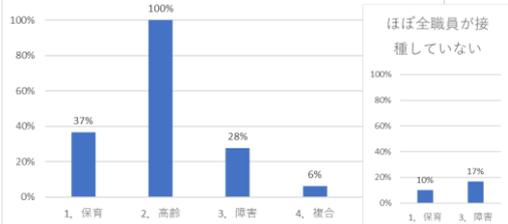
：74法人 (51%)

基本情報

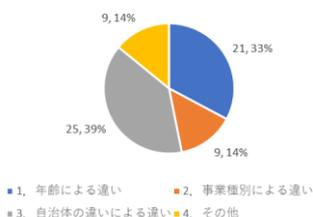
3. 職員のワクチン接種状況



ほぼ全職員が接種している



4. 職員格差の要因



・複数の行政区にまたがって事業を行なっている。行政と医師会が連携して施設に医師、看護師を派遣し、入所とGHの利用者・職員共に優先接種を実施、もしくは福祉従事者に対し別途優先接種の日程を設け個別接種をすすめた市町村がある一方、ワクチン接種の事前準備に不備があり、市全体の接種が遅れており、障害者や福祉従事者についても特別の配慮が一切なく、一般の予約と同様に自己責任で予約をとるよう強いられている。

・自治体・年齢の差異によって接種券の郵送時期が違い情報共有も難しい。従事者優先接種の受付にも自治体によって差があった。(勤務施設が他の自治体でも居住していれば接種OKのところと、勤務地が他の自治体ならダメと対応された。)ワクチン供給不足によって予約受付が中断してしまっている。

・職員は複数の自治体から来ており、その自治体で接種券の配布に時間差があり、また申し込み、実施にも時差が生じている。事業所のある自治体では職員全員が接種することができない為、住んでいる自治体で自主的に進めてもらっている事で個の差が生じている。

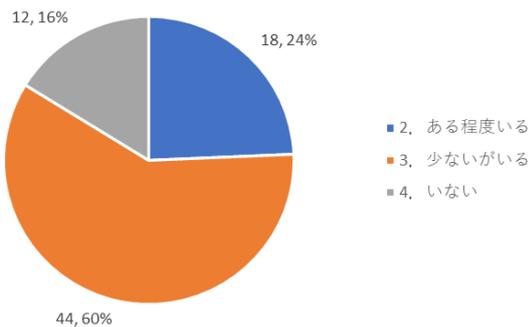
・1高齢、2障がい、3保育、4児童という順序で進んでいる。また、市の管轄の施設は早めだが、県の管轄の施設は接種スピードが遅い。

・第1種社会福祉事業に該当する特養と軽費老人ホームを行っている事業所は、嘱託医の対応等で優先的に摂取し、すべての職員が7月中に2回目の接種が完了。保育事業については自治体の優先接種で進めているが自治体ごとで進捗状況の違いがある。全体の6~7割程度の職員が2回目の接種を完了している状況。通所介護事業と障害事業の通所系(放デイ、児童発達支援、就労継続)についてはいまだ接種が進んでおらず、利用者職員ともに接種が未定となっている。

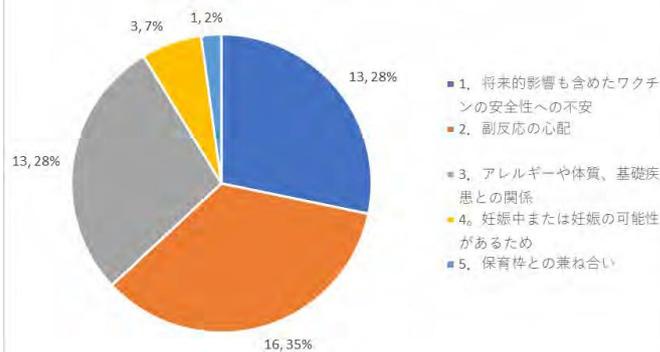
・入所系施設(GH含む)職員のみ優先接種対象 通所系職員はキャンセル待ち又は大規模接種会場枠での受付はあったが遠いため希望者はいなかった

・希望者全員が接種済ではない。1回目の日にち待ちの職員もいるが申込済み。高齢者施設が保育園より先行実施のため差がある。高齢者施設間でもワクチンの供給時期によって入手法が少なく職員は施設内での接種ではなく集団接種会場へ案内した職員もいる。高齢者の入所施設直接処遇の職員でも集団接種会場者が出ている。

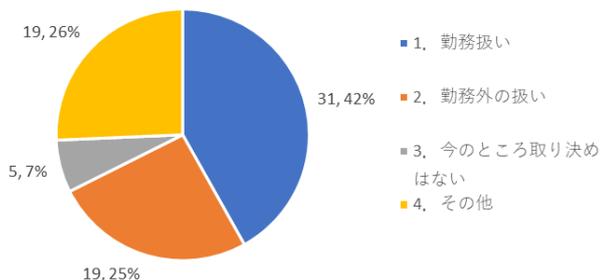
5. ワクチン接種を希望しない職員



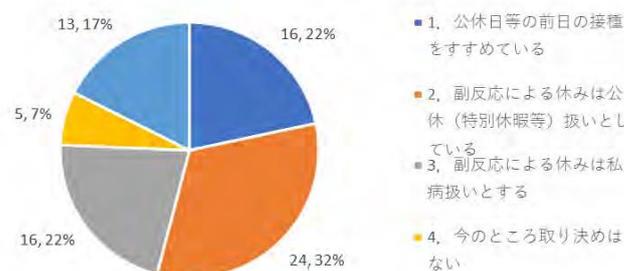
6. 希望しない理由



7. 職員の接種日の勤務の取り扱い



8. 副反応が出た職員への対応



・利用者からの感染が一番考えられる保育現場では、父母や祖父母の接種が進むことを望むが保護者は若いので職場接種が進まないと感じている。まだまだ進んでいないと考えている。

・日中事業などの利用者が固定している事業所の利用者はほぼめどが立っている。集団接種会場に行く事が出来ないで循環接種を医師に頼んだ。うちではできたが、嘱託、提携医の無い小さな法人や個人はそれができない。当法人は引き受けてくれた医師がいたが見つからない法人は接種が進まない。

・高齢においては、ほぼすべて接種している。保育園児については全くすすんでいない。

・「第3順位」の予約可能日直前に「集団接種」が「休止」（事実上「中止」）になったがそれに代わる有効な支援策（「個別接種」へのアクセス支援など）が行政から示されないため、自助努力にゆだねられている。

・今回、途中からワクチン不足と言われ予約ストップになりました。施設以外の従業員の接種券の案内は来ません。その前に市民全員に接種券が送られたので。高齢者施設は優先されましたが、訪問介護やそのほか高齢者にかかわる従業員はPCR検査を含め除外されています。法人内でも格差が生じています。

・障害のある利用者が安心して接種できる場が確保されていない。通所系事業所にて嘱託医に協力してもらい可能な範囲で集団接種を進めているが、行政の関与（支援）は全くなし（施設任せ）。

・個人の都合でまん延防止地域に出かける職員には、1週間の待機又は抗原検査の実施、緊急事態宣言地域に出かける職員にはPCR検査をしてもらっています。（自費）

・はっきりした「優先」の方法を考えてください。

①施設利用者の名簿にもとづき、施設ごとに医師を派遣して接種してください。

②施設職員の名簿にもとづき、医療機関を指定して、数名ごとに接種してください。

・早々にワクチン接種した医療機関でのクラスターが近隣でも起きています。接種済みの医療従事者からも陽性者が出ており、65歳以下の接種希望者へのワクチン接種が早急に手配できるようにする必要があります。

・嘱託医や健康診断をお願いしている機関にも相談したが、嘱託医は接種を行っていないこと、健康診断をお願いしているところでは予約がいっぱいでかなり先になるという回答だったため、事業所での実施は困難と判断し、希望者でグループを作って接種することにしました。障害のある方は、大規模会場では流れに乗れないかも、というご家族の不安が大きかったです。また、支援者は1名まで、という条件もあり（理由を説明して2名でもよいことにしてもらいましたが）、接種までにも結構なハードルがあると感じました。

・ワクチン接種開始が夏季休暇の時期と重なり、副反応で体調崩した場合休みがとりにくく遠慮してしまっている。ワクチンについては、施設で休暇保障（有給）が出来ていない個人の休暇で対応してもらっている。出来れば職員の休暇保障の補助などあればうれしい。

・ワクチンについては接種に対し、ネットなどで副反応のことで色々書かれているので戸惑う人が多かった。

・今後もワクチンの接種が必要なのであれば、インフルエンザのように接種時期に幅を持たせて個々のタイミングで接種できワクチン後の体調管理もしやすい状況になる事を希望します。

・職業的に、人と会ったり外出、旅行等若い保育関係者が我慢しているのを見るのは辛いですね。研修もリモートが当たり前になって、対面で話しあうといった学びあいがなかなかできません。